

2007. 6月号

都市みらい通信 IFUD LETTER

Institute for Future Urban Development



【目次】

・千代田区MO (マネジメントオフィス)	P 1
・『坂の上の雲』のまちづくり	P 2～3
・「紫川マイタウン・マイリバー整備地区」の紹介	P 4～5
・任意団体紹介 (その1)	P 6
・「都市みらい・まちづくりSNS」参加者募集のお知らせ	P 6
・会員紹介 株式会社アルメック	P 7
・人事異動のお知らせ	P 7
・技術研究論文募集のお知らせ	P 8
・機構の活動状況	P 8

《ハイライト》

- ・千代田区MO(マネジメントオフィス)
- ・「都市みらい・まちづくりSNS」参加者募集のお知らせ
- ・技術研究論文募集のお知らせ

§千代田区MO (マネジメントオフィス)

千代田区では、飯田橋・富士見地域と神田駿河台地域を対象に、昨年11月に行政・民間・地元が一体となって、まちづくりを進めるための、調整するグループ(マネジメントオフィス)の公募により選定をいたしました。

飯田橋・富士見地域においては、地域の将来像を示す【飯田橋・富士見地域まちづくり基本構想】を作成し、現在は構想の具体化に向けて検討を進めています。

また、この地域だけのまちづくりの専門家として、まちづくりの方向性や各種開発の協議・調整を行なうグループとして、パシフィックコンサルタンツ(株)に決定しました。

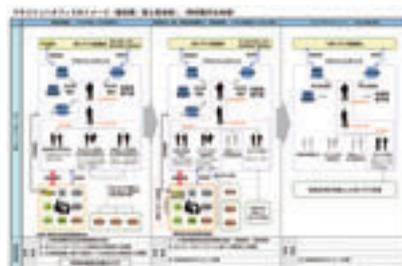
現在の業務としては、まちづくり協議会の事務局、駅周辺地区整備の協議組織の事務局の運営を行なっております。

また、周辺地域内において、民間開発事業の計画に対しても地域貢献策等を開発事業者と調整を行なっております。

今年の秋頃までに駅周辺地区整備構想の策定、公共整備に関する役割分担ルール策定、また、まちづくりガイドラインの策定を20年3月までにまちづくり協議会に諮りながら決めていく予定となっております。

神田駿河台地域におきましても、三菱総合研究所グループによって同様に地域のまちづくりを推進していく予定となっております。

ちなみにMOの公募・選定については、当機構がお手伝いさせていただきました。



協議会風景



§ 『坂の上の雲』のまちづくり

坂の上の雲まちづくりチーム

近代俳句の祖・正岡子規に「春や昔十五万石の城下哉」と詠まれた松山には、松山城を中心とした城下町を基に、愛媛県の県庁所在地として現在人口51万人を超える四国最大の都市が形成されております。

その松山市は平成11年度から正岡子規と日露戦争で日本を勝利に導いた軍人・秋山好古・真之兄弟の松山出身の三人を主人公にした小説『坂の上の雲』をモチーフにした「『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想」を展開しています。これは、松山城周辺市街地エリアとする「センターゾーン」と、道後温泉周辺、松山市総合公園周辺、三津浜・梅津寺、久谷・砥部、風早、忽那諸島の6つの「サブセンターゾーン」、そして、小説ゆかりの地を含む地域資源を「サテライト」として構成し、これらのゾーンとサテライトを一体化して松山全域を屋根のない一つの博物館と捉え、ここを回遊することにより、そのたたずまいや雰囲気から、松山ならではの文化性や物語性のある『坂の上の雲』の世界が感じ取れるようなまちを目指そうというものです。

この構想は、『坂の上の雲』のまち再生計画として、平成16年に内閣総理大臣より認定され、更に平成16年度から平成20年度までを計画期間とする、都市再生整備計画を国土交通大臣に提出し、まちづくり交付金を交付され事業実施を行っています。

事業のうち、いくつか具体例をあげてまいります。

①ロープウェー街の整備

前述の松山城は、写真1のとおり小高い山の上に築かれた平山城で標高約132mと、麓との標高差があるため、ロープウェーが整備されており、その駅舎がある商店街をロープウェー街といいます。そのロープウェー街の整備を商店街の人たちが主体となって進めました。ファサード整備や電線類の地中化及び景観整備を行い、統一感のある新しい町並みに生まれ変わりました。

その結果、当該地区は地方都市部では数少ない公示地価が上昇に転じている地区となっております。

②坂の上の雲ミュージアム

まちづくりの核となる施設として平成19年4月にオープンいたしました「坂の上の雲ミュージアム」は、三角形という





大胆な形状で、設計は安藤忠雄さんです。このミュージアムは、松山城（江戸期）・愚陀佛庵（明治時代）・萬翠荘（大正時代）と一つの線上に並んだように存在しています。これは、建設にあたって、『市街地にいる人々と城山の自然・文化・歴史をつなげていく』ということを重視したものです。

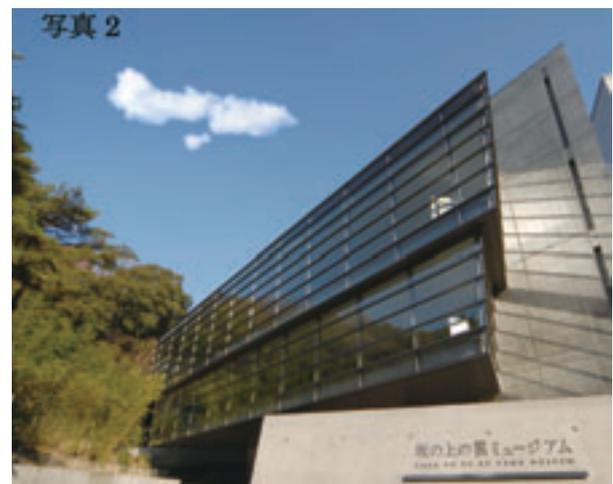
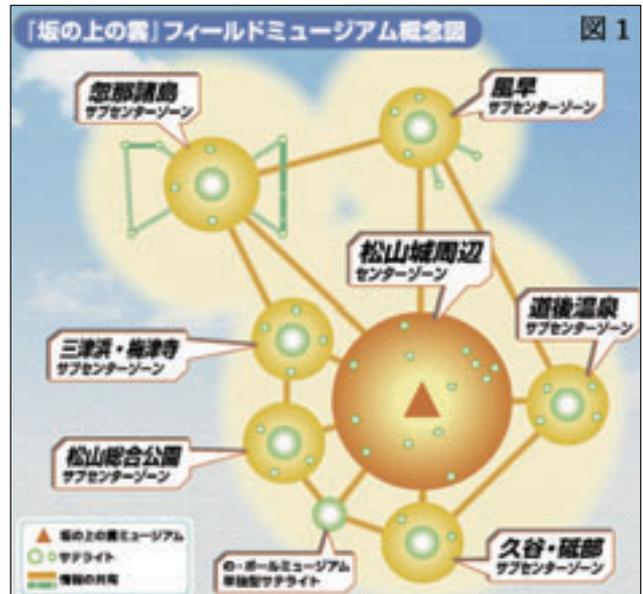
このミュージアムは開館2週間あまりで2万人を超える来館者にめぐまれ、好評をいただいております。

その他、松山市を代表する観光地であります道後温泉本館周辺も石畳を敷き詰めた歩行者専用空間にするなど、いろいろな事業を行っております。

ところで、まちづくり交付金事業においては、都市再生整備計画の目標等の達成状況等について評価を行い、これを公表するとともに、国土交通大臣に報告しなければならないとなっておりますが、本市の都市再生整備計画の目標では観光入込み客数600万人を掲げております。

平成18年の松山市の観光客は前年比2.3%増の493万8000人となり、前年までの微減から増加に転じております。NHKのスペシャルドラマ「坂の上の雲」も平成21年からの3年間にわたる放映が決定し、本年から撮影が始まることも追い風として、観光入込み客数600万人を達成できるよう、まちづくりを進めて参ります。

皆様も是非松山市・道後温泉へ旅行していただきまして、『坂の上の雲』のまち松山を堪能してください。よろしくお願いたします。





§ 「紫川マイタウン・マイリバー整備地区」の紹介

北九州市では、都心部を流れる紫川の下流部における整備につきまして、魅力的なまちづくりを目指した取り組みを実施しておりますが、その概要をご紹介します。

【かつては殺風景な紫川】

小倉都心部を流れる紫川は、高度成長期には汚染が深刻で、沿川の建物の多くは川に背を向け、殺風景で誰も見向きもしないような状態でした。また、昭和28年6月には大水害を受け、現在の市域で見て、死者行方不明者183人、家屋の倒半壊3,800戸、総被災戸数8万3千戸という多大な被害を受けました。

その後、福岡県によりダムの建設、護岸の部分改修が進められてきましたが、昭和28年6月の豪雨と同等の雨量でのシュミレーションをしてみると、かなりの被害が予想されることがわかりました。

【まちづくりの中心 紫川】

このような状況の中、昭和62年度に建設省（現：国土交通省）では、河川改修が急がれる中心市街地で、河川整備と併せて道路、公園、市街地の整備を一体的に行う「マイタウン・マイリバー整備事業」が創設されました。これに紫川はいち早く名乗りを上げ、昭和63年に整備河川の指定を当時の建設省から受け、平成2年度から整備を進めてきました。

【市民のアイデアをちりばめた紫川】

計画づくりの段階から、市民に親しまれ、愛される川をつくることを目的とした、市民アイデア「マイプラン紫川」を募集し、選ばれたアイデアを計画に盛り込んできました。これら市民アイデアは「人工の滝」、江戸時代にあった洲や干潟をイメージした「州浜ひろば」そして、川・自然・環境についての理解を深め、楽しく遊んで学べる施設「水環境館」など随所に取り入れ、紫川は多くの市民に親しまれるようになってきました。

【魅力的な水景 紫川】

河川と一体となった親水空間や自然をテーマとした紫川10橋、川に近接した公園等の公共の都市基盤整備にあわせ、ホテルや商業施設、複合施設などの民間施設も水辺を活かしたオープンスペースとして一体的な整備をおこない、魅力ある水景都市が形成されてきました。



昭和50年ごろ



現在（同じ場所）



【ハードからハート&ソフトな紫川】

このように目に見える形でまちの姿が変わったことが、地域のまちづくり活動へのインセンティブとなり、紫川マイタウンの会などのまちづくり団体を中心に様々な取り組みがなされるようになりました。紫川貸しボートや遊覧船、勝山橋広場のオープンカフェ、紫川水上ステージの野外コンサートなど、水辺や河畔の公共空間を活用した四季折々のイベントが盛んになってきました。

これからも将来を見通した様々な事業を展開し、活力ある都心を形成していく北九州市に注目してください。

なお、この「紫川マイタウン・マイリバー整備地区」は、ハード事業、ソフト事業をうまく融合させ、賑わいのある魅力的なまちづくりが行われていることが評価され、平成19年度都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」を受賞しました。



民間施設と一体になった親水空間



長崎街道の起点・常盤橋（木の橋）
（森鷗外は馬で常盤橋を渡り、小倉城跡の陸軍司令部へ通った）



賑わいだけでなく、アユやシロウオも戻ってきた紫川（写真右側：人工の滝）



勝山橋オープンカフェ・・・川面で風を感じて



§ 任意団体紹介（その1）

当機構では、関係任意団体の事務局を担当し、それぞれ鋭意活動を行っておりますが、その団体の概要についてご紹介いたします。

まちづくり交付金情報交流協議会（略称：まち交協議会）

（1）設立目的

本協議会は、まちづくり交付金を活用して地域の創意工夫を活かしたまちづくりの推進を目指す地方公共団体が集い、まちづくり交付金情報システム（略称：まち交ネット）を活用して情報交流を行なう組織として平成18年2月に新たに設立されました。

本協議会は、まちづくり交付金を活用した全国のさまざまな取り組み事例についての情報の入手や交換、まちづくりに関する課題の解決や先進の事例についての講習会や勉強会などを通して、地域の創意工夫を活かしたまちづくりを促進することを目的としています。

（2）事業内容

設立以来、まちづくり交付金に関する情報交換、講習会、まち交大賞の実施などの事業を実施してきました。とりわけ、まちづくり交付金に関する情報収集提供にあたっては、平成19年度から（財）都市みらい推進機構が運営するまちづくり交付金情報システム（まち交ネット）を活用し、情報の収集提供を行なってきました。また、平成19年度からは、まちづくり交付金に関する調査研究や先進地の視察も実施する予定となっています。さらに、本会はこれまで無料で運営してきましたが、協議会の自主性を高め独自の活動が可能となるよう平成19年度からは会費制を導入しており、平成19年6月現在、372の地方公共団体が加入しています。

なお、まち交ネットについては、これまで地方公共団体の皆様を対象に無料で情報が提供されてきましたが、平成19年2月からは新たに民間企業等の皆様も対象とし、検索機能の導入や交流協議会との共通掲示板の設置など既存コンテンツの増強を図った上、有料で情報が提供されております。

（3）ホームページ

現在、まち交協議会独自のホームページはありませんが、「まち交ネット」のアドレスからご覧頂くことが可能です。 <http://www.machikou-net.org/>

§ 「都市みらい・まちづくりSNS」参加者募集のお知らせ

当機構では、まちづくりに携わる地方公共団体の担当者、民間のまちづくり関係者等がWebサイト上で、まちづくりについて情報交流・交換を図る「都市みらい・まちづくりSNS」を無料で試行しております。

まちづくりSNSでは「中心市街地活性化」等のオフィシャル・コミュニティーを用意しており、これらに参加されることによって、日頃まちづくりにご尽力されておられる方々の意見・情報の交流・交換ツールとして必ずやお役に立つものと存じます。

是非、皆様にご参加いただきたいと思います。参加ご希望の方は、下記アドレス宛にメールにてご応募いただきますようお願い申し上げます。

E-mail: snsmaster@toshimirai.jp



§ 会員紹介：株式会社アルメック 「柔軟な発想を重視するまちづくり技術・研究者集団」

アルメックは内外の地域・都市整備に関する幅広い業務や研究を通じて技術の蓄積を重ねてきました。成熟社会を迎えた今、地域・都市整備を取り巻く様々な状況も新たな局面を迎え、今後、さらに柔軟で斬新な発想が重要になると考え一層の研鑽に励んでいます。地域の自立的な発展や地方、国の持続的な発展に寄与していく所存です。

ここでは第二計画部の業務から、試行的取組み動向の一部をご紹介します。これまでもバスや自転車に関わる社会実験等に関わってきましたが、近年は、新たな視点からの試行的取組み例が増えていきます。既存施設活用の視点やパッケージでの取組み、地元組織や個人への働きかけ、ボランティアの組織化など、目的や方法、内容も多岐にわたっています。

写真1：「トランジット・モールと楽しく、安全に歩ける歩行空間創出実験（目黒区自由が丘）」では、次の4つの社会実験をパッケージとして行いました。

- ①いわゆる「歩行者天国」の駅前へのバス通行実験
- ②歩道幅員確保の方法に関する実験
- ③路上荷捌き車対策のための共同集配システム導入実験
- ④駅から遠い駐輪場への誘導による放置自転車対策実験

写真2：千葉市稲毛駅では、駅前広場の面積を変えないまま、交通規制を工夫する社会実験を通して、市内第二の駅にふさわしい秩序ある駅前交通環境を実現しました。

写真3：新潟県上越市では、2つのまちづくり協議会の自立と連携を進めるため、都市再生モデル調査のなかで、大規模計画地（福祉施設）においてまちづくりイベント「まち覧会」を開催しました。

写真4：柏市をフィールドとして、IT活用やインセンティブ付与によって、活用度の低い既存の付置義務駐輪場に放置自転車を誘導する社会実験を行いました。他に、エコドライブ推進イベント（栃木県）や、情報提供にかかわる民間組織立ちあげの取組み（三郷市）などもあります。



写真1 トランジットモール等社会実験（目黒区）



写真2 既存駅前広場空間活用のための交通社会実験（千葉市）



写真3 大規模計画地における地元組織強化イベント（上越市）



写真4 ITを活用した既存駐輪場活用実験（柏市）

お問い合わせ窓口：第二計画部 高尾、坂井 TEL：03-5489-3231

§ 人事異動のお知らせ

【6月1日新任】

開発調査部長 小野正俊



§ 技術研究論文募集のお知らせ

アーバンインフラ・テクノロジー推進会議では、毎年技術研究発表会を開催しておりますが、今年は10月10日に丸ビルでの開催を予定しております。

技術研究発表会は、民間企業・学識経験者・公共団体の技術研究の成果・事例等を一同に会して発表するもので、19年度のテーマは「環境と人にやさしいまちづくり技術」です。現在、論文を募集しておりますので、皆様のご応募をお待ちしております。募集等の詳細は、下記ホームページをご参照いただけますようお願い申し上げます。

<http://www.uit.gr.jp/>

§ 機構の活動状況

日	5月	日	6月
8	相模大野特定業務代行審査会第2回	11	品川新拠点研究会Ⅱコアメンバー会議
10	墨田区役所と意見交換	13	19年度第1回土地活用モデル大賞審査委員会
15	まち交大賞全国大会審査会	13	豊田市中心市街地活性化基本計画策定プロジェクト会議
16	東久留米市長と意見交換	15	第25回「まちづくり月間」中央行事（まち交大賞国土交通大臣賞授賞式）
18	MIPIM2007全体会議（反省会）	15	まちづくり月間講演会
22	相模大野特定業務代行審査会第3回	20	豊田市中心市街地活性化基本計画策定委員会
22	新潟県東京事務所駐在参与と意見交換	20	理事会・評議員会
29	まちづくり交付金情報交流協議会 第1回企画運営委員	21	埼玉県と意見交換
30	品川新拠点研究会Ⅱコアメンバー会議	26	あすと長町施設立地研究会検討会
		29	豊田市中心市街地活性化協議会

【機構関係諸団体】

《インテリジェントシティ整備推進協議会》

9	監事監査	5	定時総会
25	総合委員会		

《地方の拠点まちづくり協議会》

11	監事監査	8	運営会議
25	評議員会・総会		

《都市地下空間活用研究会》

8	地下ネット合同WG会議	4	企画運営小委員会
18	企画運営小委員会	5	地下ネット合同WG会議
18	大阪分科会 村橋座長ヒアリング	7	地下ネット合同WG札幌市ヒアリング
24	地下ネット合同WG会議 国土交通省ヒアリング	14	監事監査
29	大阪分科会 全体会	20	地下ネット合同WG会議
30	地下ネット合同WG会議	22	評議員会・定時総会

《アーバンインフラ・テクノロジー推進会議》

17	技術交流部会及び展示委員会		
31	評議員会・通常総会・定例講演会・意見交換会		

（財）都市みらい推進機構

住所 東京都文京区音羽2-2-2
アベニュー音羽3階
電話 03-5976-5860
FAX 03-5976-5858
Email kikaku@toshimirai.jp

ホームページもご覧ください
<http://www.toshimirai.jp/>

当機構は、「新しい都市拠点形成等の都市活性化に関する総合的な調査・研究、情報・資料の収集等、民間の技術と経験を活かしつつ、地域社会と調和した活力ある都市づくりの推進を図ること」を目的として、昭和60年7月29日に設立された財団法人です。

- ・まちづくり交付金事業支援
- ・都市拠点開発・都市再生支援
- ・中心市街地活性化支援
- ・低・未利用地有効活用支援 他